



令和6年5月17日

担当課	文化振興課
担当者	後藤・大木
電話	435-1194
内線	3018

郭家住宅の重要文化財指定について

国の文化審議会（会長 しまたに ひろゆき 島谷 弘幸）は、令和6年5月17日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、和歌山市所在の郭家住宅について重要文化財に指定することを文部科学大臣に答申しました。

洋館の建築年代は現存する擬洋風の住宅として最古級であり、全国的に見ても貴重な近代の和歌山を象徴する建造物です。和歌山県内では初の擬洋風建築の国指定建造物となります。

この結果、和歌山市内の国指定重要文化財（建造物）の件数は14件となる予定です。

【指定される文化財】

- ・名称 かくけいじゅうたく 10とう 郭家住宅 10棟
ようかん しんさつとう ざしき はな こめぐら ひがしどぞう みなみどぞう ふろ そとべんじょ
 洋館、診察棟、座敷、離れ、米蔵、東土蔵、南土蔵、風呂、外便所、
おもてもんおよびいしべい とち
 表門及び石塀、土地
- ・所在地 和歌山市今福1丁目
- ・所有者 個人
- ・建物の概要 別紙参照



洋館(外観)



洋館(1階内部)



洋館(ベランダ)



座敷(内部)

1 郭家住宅の概要

(1) 郭家について

郭家の初代は、清朝の侍医であったが国乱を逃れて江戸初期の明暦年間（1650 年代）に中国大陸から長崎に渡ってきました。和歌山に移ってきたのは三代目の時期で同じく医業につきました。四代目は寛政 6（1794）年より紀州藩の御殿医となり、以降七代目まで代々御殿医を務めました。郭家最後の御殿医であった七代目（百輔）は西洋医学を学び、明治 7（1874）年、和歌山医学校兼小病院の創立に大きな役割を果たしました。この病院は現在の日赤和歌山医療センターの前身となります。明治 10（1877）年、今福の自宅に洋館を建築し郭医院を開業し西洋医学による地域医療に尽力し、郭医院は八代目（嘉四郎）が昭和 3（1928）年に没するまで続けました。

(2) 郭家住宅について

郭家は寛政 10（1798）年に屋敷を構えます。米蔵はこの時期に造られたと考えられます。その後、明治 10（1877）年に洋館と診察棟、明治 14（1881）年に座敷を購入し移築、明治 24（1891）年に離れ、東土蔵を建設、明治 40（1907）年に風呂と南土蔵を建設、明治 41（1908）年には北側の敷地を購入し、大正 14（1925）年に外便所、表門及び石塀がつくられ、現在の形となります。

洋館は、正面に玄関ポーチと二階にベランダを備えた、洋風建築らしい特徴ある外観です。一階は二室よりなり、待合や薬局、応接に使用されていました。洋館の開き戸にはペンキで木目を描いた木目塗りの痕跡が残っており、明治前期の擬洋風建築¹⁾らしい特徴を備えています。**洋館の建築年代は現存する擬洋風の住宅として最古級であり、全国的に見ても貴重な近代の和歌山を象徴する建造物です。和歌山県内では初の擬洋風建築の国指定建造物となります。**

座敷は多種多様な材料を用い、濃密な意匠を施した数寄屋²⁾風座敷で、医師であり文化人であった郭百輔の意向や趣味が反映されています。襖絵の絵師の年代観からこの建物は天保年間（1830～1843）に建築された建物と推定されます。なお、この建物は伊達家の座敷を移築したと伝わっており、陸奥宗光の生家の可能性が指摘されています。

1) 明治時代のはじめにみられる洋風建築で、江戸時代から続く日本の建築技術を元に作られたもの。

2) 茶室建築などに代表されるもので、格式や様式を重んじるよりは、竹や杉皮を天井や壁に用いるなど、茶人や文化人の趣味が現れた建築。

2 今回指定後の国宝・重要文化財（建造物）の件数

国宝・重要文化財（建造物）	2, 582件
・和歌山県内の件数	87件
・和歌山市内の件数	14件